

食料経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 藤島 廣二

◆学習・教育目標

現在では、周知のように、世界のどこからでも食料を輸入することが可能である。そのため、大豆や大麦のように90%前後、あるいはそれ以上を輸入に頼っているものさえある。自給率が高いといわれていた野菜でさえも、今日では20%前後を輸入に頼っているほどである。

このように輸入が著増したことによって、食料の流通システムは当然、過去に例を見ないほどにグローバル化した。また、国内の流通システムも著しく変化した。

本特論では、こうした流通システムの変化を講義と互いの討論を通して把握し、それによって国内外の経済の動きを理解できる能力を養う。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

流通	農産物	グローバル	商流
食料	青果物	卸売市場	物流

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	国産農水産物の輸出の現状と問題点のシステム論的解明とその効率化策の提示 (第1～2週)	各自が特定の品目に絞って、当該品目の現在の輸出システムを物流と商流の両面から調査し、その問題点と今後のあり方を究明・検討し、それを各自が報告する。	輸出農水産物の流通システムの調査方法を会得すると同時に、調査結果の理論化・まとめ方を理解する。
2			
3			
4			
5			
6			
7	国産農水産物の輸入状況と問題点のシステム論的解明とその効率化策の提示 (第3～8週)	各自が特定の品目に絞って、当該品目の現在の輸入システムをグローバルな視点から調査し、その問題点と今後のあり方を究明・検討し、それを各自が報告する。	輸出農水産物の流通システムの調査方法を会得すると同時に、調査結果の理論化・まとめ方を理解する。また、自分が研究する際の流通システムのあり方の論じ方を把握する。
8			
9			
10			
11			
12			
13	現状の流通システムの物流・商流両面からの改善・効率化策の提示 (第9～15週)	これまでの授業での報告内容を整理し、農水産物(食料)流通システムに関する改善・効率化策をまとめ、発表する。	流通システムの調査方法を会得すると同時に、調査結果の理論化・まとめ方を理解する。
14			
15			

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

新版 食料・農産物流通論／藤島廣二他／筑波書房 (2012年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

業務・加工用野菜／藤島廣二他／農山漁村文化協会 (2008年)、市場流通 2025年ビジョン／筑波書房 (2011年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

各自の報告と他者との議論の内容とに基づいて評価する。

◆その他受講上の注意事項

現実を踏まえた独自の理論を展開するつもりで議論に参加するように務めること